

本日のテーマ

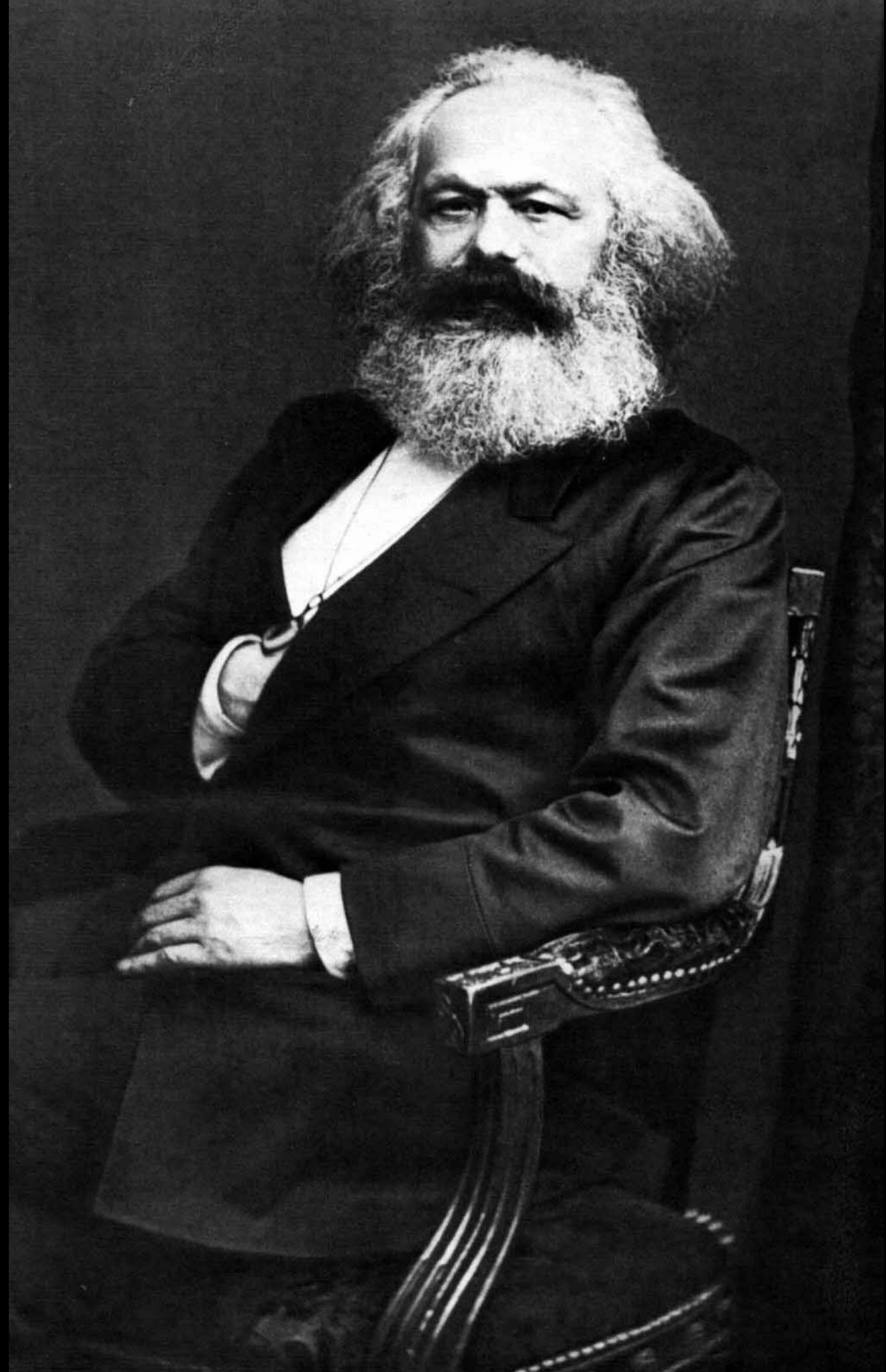
ミーティング空間

他者と出会うための場所を考える

マルクス (1818-1883)

の示す4つの「疎外」

(孤立と分断のプロセス)



【1. 労働生成物からの疎外】

自分が作った製品は、すべて資本家（経営者）のものになる。
製品を作れば作るほど、自分は貧しくなり、製品が自分を縛る存在になる。

【2. 労働過程（作業）からの疎外】

仕事は自己実現ではなく「ただ苦痛に耐える時間」。
業務中の自分は自分の心と身体をコントロールできない。

【3. 類性的存在（人間らしさ）からの疎外】

考える・工夫する・他者と協力するという「人間特有の創造性」が奪われ、
ただ生きていくための動物的な本能（食べる・寝る）を満たすためだけに働くようになる。

【4. 人間からの人間からの疎外（＝人間関係の分断）】

自分自身から疎外された人間は、他人も素直に見られなくなる。職場の同僚は「仲間」ではなく「自分の賃金や立場を脅かすライバル」に見え、人間関係が「利害関係・商品取引の関係」に変質してしまう。

分かりやすく言うと

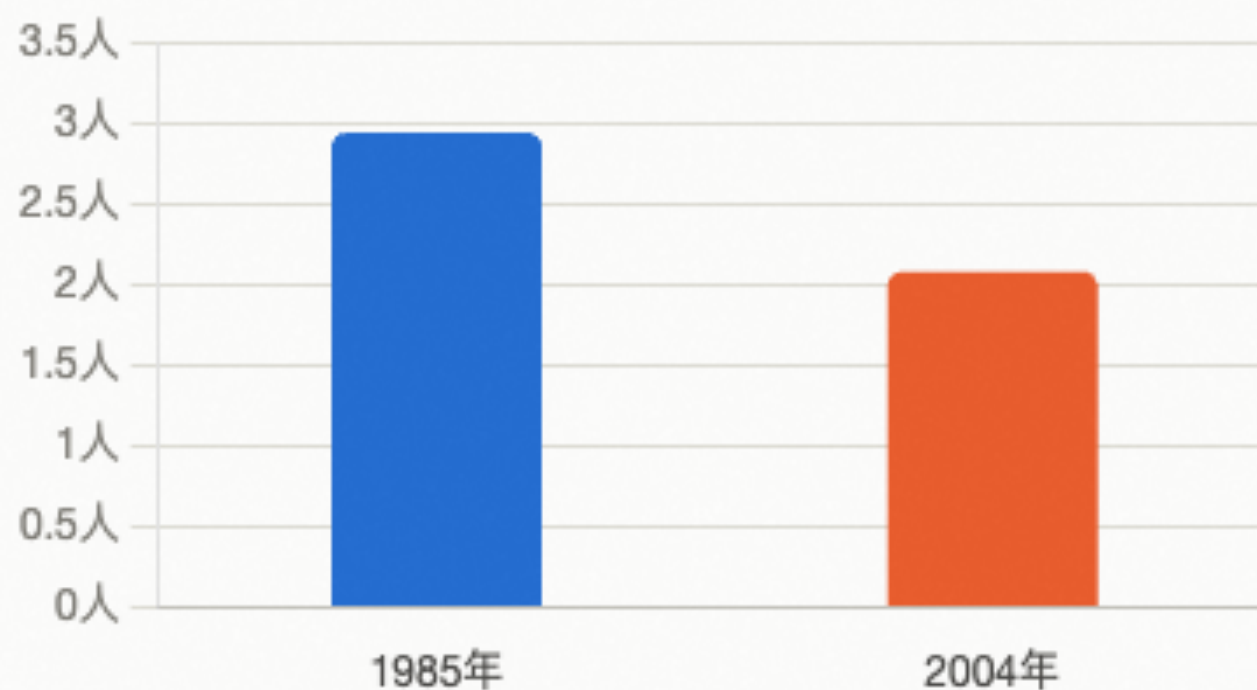


お金や効率を最優先する社会では、
人間は自分らしさを見失い、
他者と競い合わされ、**孤独**になっていく

「社会孤立」はより深刻化している

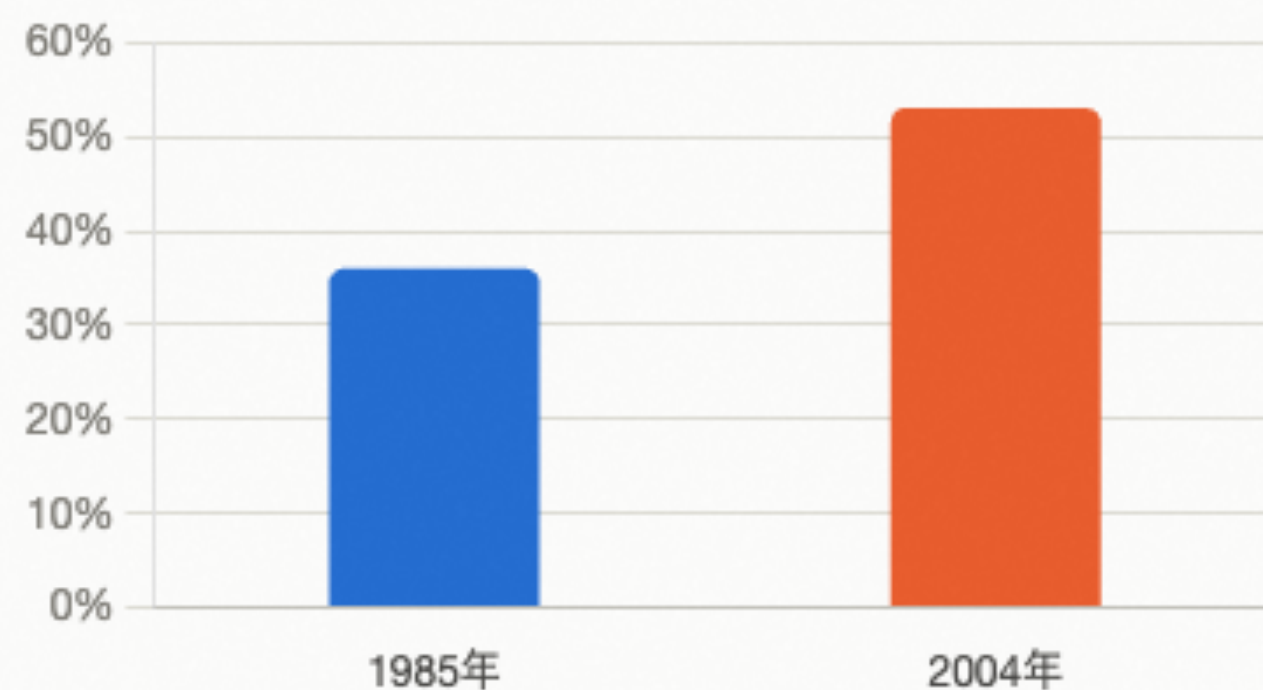
重要な事を相談できる相手の平均人数

General Social Survey (1985年 / 2004年)



家族以外に親しい友人がいない人の割合

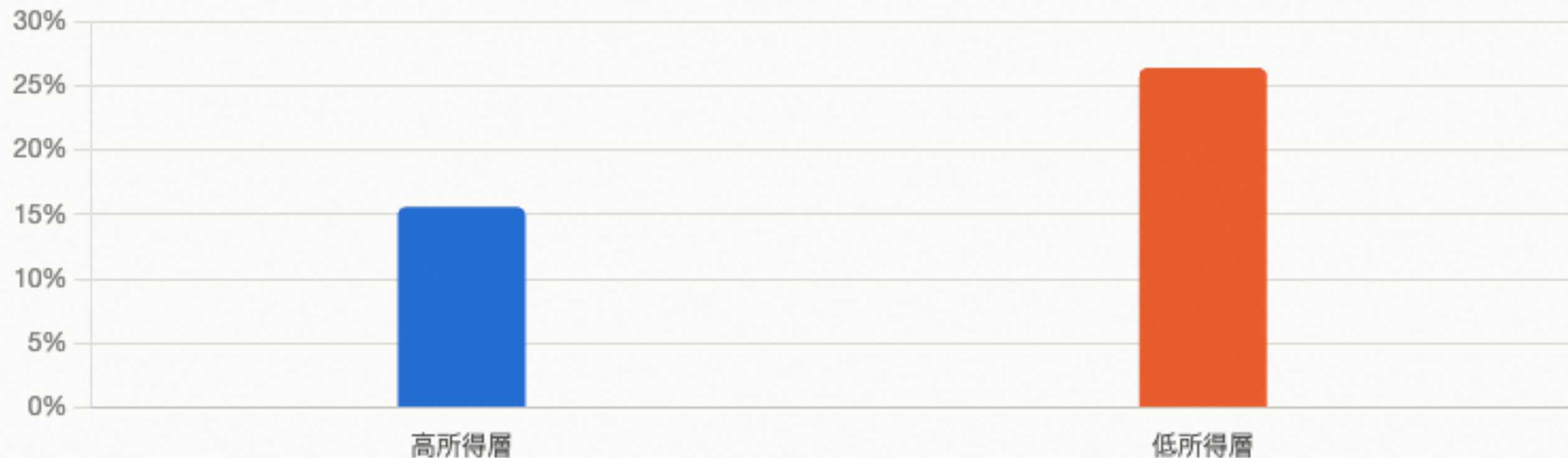
General Social Survey (1985年 / 2004年)



「社会孤立」は経済状況とも 関連している

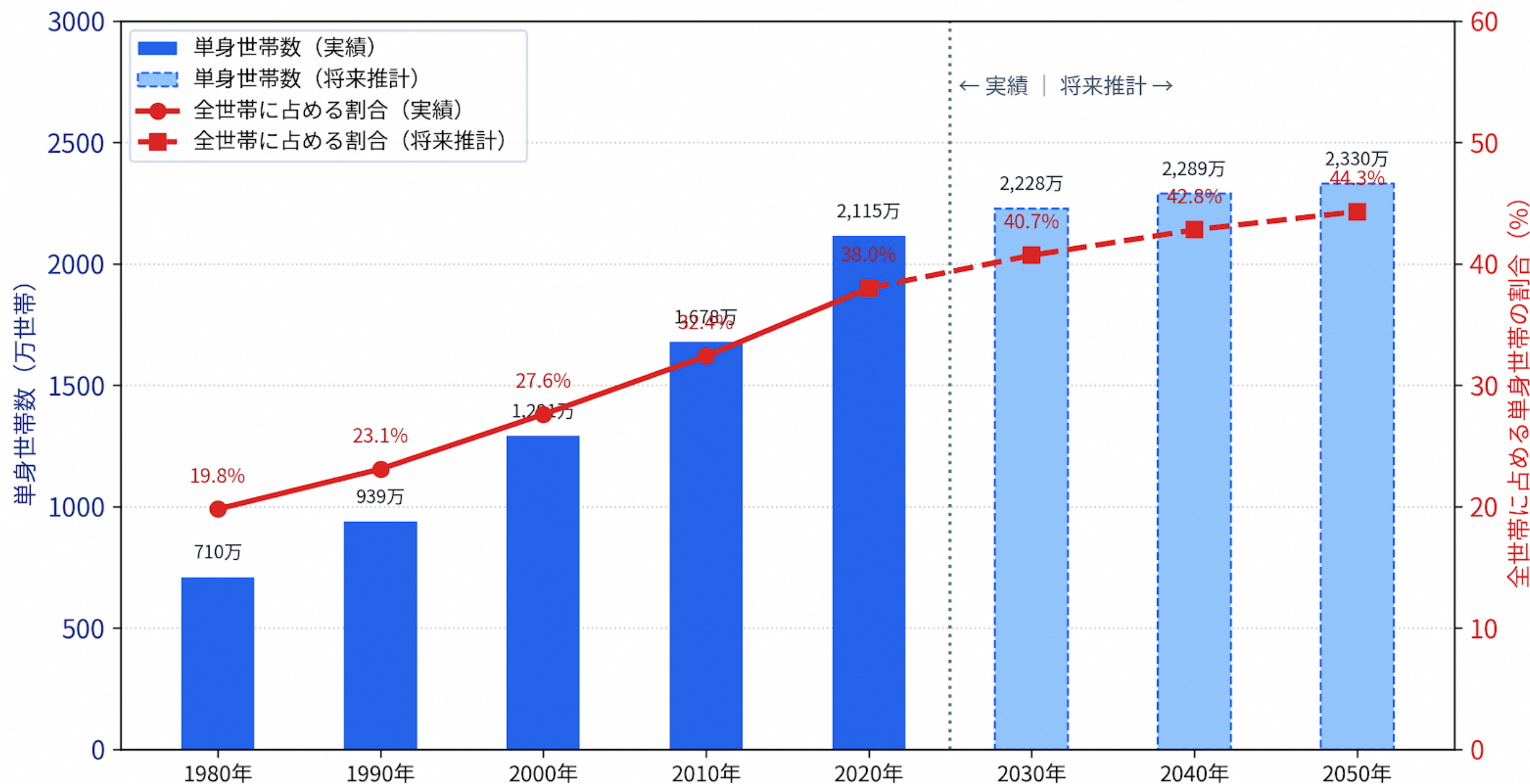
所得層による孤立率の差（2020年ピーク時）

同一国内の高所得層と低所得層の比較

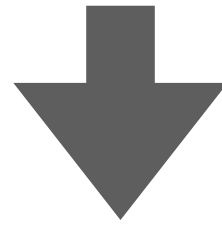


現実として「孤独化」が進んでいく

日本の単身世帯数および割合の推移と将来予測（1980年～2050年）



「疎外」を乗り越える
ために必要なこと



「利害関係に汚染されない、
人間同士の対等な結びつき」

(マルクス)



< 仮説 >

今、図書館に求められるのは、
利益や評価、利害関係をすべて脇に置いて、
純粋な好奇心や『問い』を挟んで
人と人が対等に対話できる
『ミーティング空間』なのではないか

<今日の問い>

「あなたが見知らぬ人と自然に話せた場所はどこですか？」